

＜歯科衛生士学科 シラバス＞

科目名	口腔保健統計	3年生	1単位	全 8 講
講師名	岩田 朋己	評価方法	定期試験	
教科目標				
科学的な根拠に基づいた歯科衛生活動が展開できるようになる				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
目的に応じたステップを踏んだ科学的なアプローチを修得することにより 説得力のある歯科保健指導が展開できる				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
苦手意識の強い数式をメインにした「統計学」野イメージを払拭し、歯科保健活動に必要な 保健医療情報の収集と取捨選択から、収集したデータの処理と解析ができるようになる				
講 義 内 容	1	1章 保健情報と保健統計		
	2	2章 保健情報と疫学		
	3	4章 保健情報の分析手順		
	4	5章 保健統計の方法		
	5	6章 保健情報の分析演習		
	6	7章 情報の保護と倫理		
	7	3章 歯科疾患の指数 ①		
	8	3章 歯科疾患の指数 ②		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法 (例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			

科目名	国語表現法	1年生	1単位	全 8 講
講師名	津幡 笑	評価方法	ワークチェック・定期試験	
教科目標	文章を書く為の基礎を学びその知識、技法、能力を身につける。			
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
今後の他の授業、就職活動などで必要となる正しい文章を身につけられる。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
単に受け身で授業をうけるのではなく、双方向性を持った授業を目指しています。				
講 義 内 容	1	「国語表現の実践」1～3章		
	2	「国語表現の実践」4～6章		
	3	「国語表現の実践」7～9章		
	4	「国語表現の実践」10～12章		
	5	「国語表現の実践」13～16章		
	6	「国語表現の実践」17～19章		
	7	「国語表現の実践」20、21章		
	8	「国語表現の実践」25、26章		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理 解 度 の 把 握	ワークチェック			
	定期試験			
そ の 他				
使用機材	なし			

科目名	歯・口腔の健康と予防	1年生	1単位	全 8 講
講師名	水谷 博幸	評価方法	試験・レポート・授業態度等を含めた総合評価	
教科目標				
口腔内の基本的な内容を把握し、歯科医療に必要な知識を得				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
本学科は、歯科衛生士の主要3教科と密接にリンクしているもので、口腔衛生学と関連のある学問であり、歯科にとって重要な科目の1つである。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
本教科を口腔衛生学と結びつけて、「歯科衛生士」の実感を感じ取って欲しい。				
講 義 内 容	1	口腔衛生学とは何を学ぶのか		
	2	口腔内の不潔因子①		
	3	口腔内の不潔因子②		
	4	う蝕の疫学①		
	5	う蝕の疫学②		
	6	歯周疾患の疫学①		
	7	歯周疾患の疫学②		
	8	1年生の口腔衛生学復習		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理 解 度 の 把 握	7コマ終了後に模擬試験を行なう。			
	授業中は頻繁に学生を当てて、授業の進み具合と理解度を確認しながら進めていく。			
そ の 他				
使用機材	プロジェクター			

科目名	歯科衛生士概論	1年生	2単位	全15講
講師名	藤岡 郁子・山田寛恵	評価方法	定期試験 等	
教科目標				
◎ 医療に対する基本的な認識と理解および心構えを学ぶ。				
◎ 歯科衛生士としての法律・業務内容・社会的役割について理解し、この職業の専門性について学ぶ。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
◎ 歯科衛生士という職業人になるための基盤となる考え方を学ぶことで、すべての科目・実習につながる。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
◎ 全医療に共通する概念を学び、歯科衛生士という職業の専門性を理解して活動してほしい。				
講 義 内 容	1	歯科衛生士とは 歯科衛生学とは		山田
	2	歯科衛生の歴史		〃
	3	歯科衛生活動のための理論		〃
	4	歯科衛生課程①		藤岡
	5	歯科衛生課程②		〃
	6	歯科衛生課程③		〃
	7	歯科衛生課程④		〃
	8	歯科衛生課程⑤		〃
	9	歯科衛生士法と歯科衛生業務①歯科衛生士と歯科衛生士法		山田
	10	〃	②歯科衛生士の役割③関連法規④安全管理	〃
	11	〃	④安全管理:リスクマネジメント・感染予防対策	〃
	12	歯科衛生士と医療倫理		〃
	13	歯科衛生士の活動と組織		〃
	14	魅力ある歯科衛生士とは？	グループディスカッション & 発表	〃
	15	歯科衛生学 まとめ		〃
理 解 度 の 把 握	◎小テスト			
そ の 他	※この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	◎忘れ物をしない			
使用機材		プロジェクター・パソコン 等		

科目名	歯科矯正学		2年生	1単位	全 15 講	
講師名	吉沢 早織		評価方法	出席状況、試験		
教科目標 国家試験に必要な知識を身につける						
この科目の位置付け 矯正歯科診療に携わる際の知識を身につけるための土台となる科目です。						
矯正歯科診療のスタッフになり得る実践的知識を身につける入り口としてください。						
講 義 内 容	1	I-1	歯科矯正治療の概要			
	2	I-2	成長発育			
	3	I-3	正常咬合と不正咬合			
	4	I-4	矯正歯科診断			
	5	I-5	矯正歯科治療と力			
	6	I-6	矯正装置(1)			
	7	I-7	矯正装置(2)			
	8	II-1・2	上下顎の前後的、垂直的関係の不調和			
	9	II-3・4	成人矯正・口腔顎顔面の形成異常と変形			
	10	II-567、III-1	歯の埋伏と歯数の異常・治療時のトラブル・保険適用の矯正、矯正歯科診断にかかわる			
	11	III-2	矯正歯科診療時の業務(1)(2)			
	12	III-3,4,5	矯正歯科患者と口腔保健管理、口腔筋機能療法・器材、資料、文書の管理			
	13	まとめ				
	14	プレテスト				
	15	国試問題実践テスト				
理 解 度 の 把 握	質疑応答を柱にした双方向授業、プリントの穴埋め。					
	復習と理解度の確認のため、单元ごとに小テストを行う。					
そ の 他	①遅刻・携帯の使用・私語は原則禁止です。					
	②授業中の入退中は、やむを得ない場合以外は禁止です。					
	③学生としての心得をわきまえて、礼節ある態度で受講して下さい。					
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他(mac接続端子)、(ほぼ毎回・時々					



科目名	歯科口腔介護	2年生	1単位	全 15 講
講師名	山崎 和・竹内 聖子	評価方法	定期試験	
教科目標				
摂食・嚥下障害のリハビリテーションと口腔ケアが同時にできる専門家として				
知識・技術を学ぶ。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
学際的なチームアプローチの一端を担う職能を身につける				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
①検査の準備ができる②スクリーニングテストができる③間接訓練ができる④直接訓練ができる				
講 義 内 容	1	口腔ケアとは：導入		
	2	4章 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセ		
	3	摂食・嚥下リハビリテーション概論		
	4	4章 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセ		
	5	介護と口腔保健		
	6	口腔機能、摂食・嚥下機能とその発達		
	7	5章 摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケアの実際		
	8	摂食機能、その生理と障害		
	9	6章 摂食・嚥下における間接訓練・直接訓練		
	10	摂食機能に関する高齢者特有の問題と背景		
	11	7章 摂食・嚥下障害に対する食指導・食支援		
	12	誤嚥性肺炎、摂食・嚥下障害への対応		
	13	8章 リスクマネジメント		
	14	摂食・嚥下障害機能回復訓練、口腔保健のチームアプローチ		
	15	9章 摂食・嚥下リハビリテーションにおける連携		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	(例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			

科目名	口腔外科学	2年生	1単位	全 15 講
講師名	永井 格	評価方法	定期試験	
教科 目 標	顎・口腔領域の疾患を挙げ、特徴、診断法、治療法を説明できる			
	口腔外科診療における歯科衛生士の役割を説明できる			
	口腔外科患者と歯科衛生士のかかわりを説明できる			
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
歯科および医科的知識と手技が必要とされる口腔外科診療に対応するため、全身を診ることのできる幅広い知識を修得する				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
口腔や顔貌をみて、全身状態も判断できる歯科衛生士となれるよ歯科医学のみでなく、広く医学全般の知識が身につけられるよう、常に念頭に置いて履修して下さい				
講 義 内 容	1	口腔外科の概要		
	2	顎口腔領域の先天異常と発育異常		
	3	顎口腔領域の損傷と機能障害		
	4	口腔粘膜の疾患		
	5	顎口腔領域の化膿性炎症性疾患		
	6	顎関節疾患		
	7	顎口腔領域の嚢胞性疾患		
	8	顎口腔領域の良性腫瘍		
	9	顎口腔領域の悪性腫瘍		
	10	顎口腔領域の神経性疾患・血液疾患		
	11	顎口腔領域の腫瘍類似疾患・唾液腺疾患、診察と診断、 <small>※</small>		
	12	口腔外科診療の実際（口腔外科小手術）		
	13	歯科治療と歯科麻酔		
	14	救急蘇生法		
	15	中間テスト(模擬試験)		
理 解 度 の 把 握	毎回の5分間テストおよび15コマ時の中間テスト			
そ の 他	PCは毎回、講義前に準備しておくこと			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他(講義ノート)、 毎回			

科目名	歯科材料学	2年生	1単位	全 15 講
講師名	福山 麻衣	評価方法	定期試験および小テスト	
教科目標				
<p>歯科材料の分類、性質、用途を把握し、歯科衛生士が歯科診療補助において、歯科材料の取り扱いを円滑かつ確実に行うための知識を習得する。</p>				
<p>この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？</p>				
<p>歯科材料について、正しい知識を確実に習得することで、今後、実習において実際に歯科材料を正しい操作法を習得することができ、さらに卒後、その基礎知識を基に、知識、技術を高めることがこの科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。</p>				
<p>歯科治療において、歯科材料次第で患者の口腔内環境は大きく変化し、材料の取り扱いに関わった衛生士次第でも大きく影響するという意識をもって学習してほしいと思います。</p>				
講 義 内 容	1	歯科材料と歯科衛生士、歯科材料の基礎知識1(素材・分類)		
	2	歯科材料の基礎知識2(材料の所要性質・基本的性質)、歯科衛生に関わる材料		
	3	印象材1(総論)		
	4	印象材2(アルジネート、寒天)		
	5	印象材3(ゴム質、その他)		
	6	成形修復材(コンポジットレジン1)		
	7	成形修復材(コンポジットレジン2)		
	8	成形修復材(ガラスアイオノマーセメント)		
	9	合着材・接着材1		
	10	合着材・接着材2		
	11	アマルガム、仮封材、暫間修復材と仮着用セメント		
	12	模型用材料		
	13	ワックス、金属		
	14	セラミックス、その他の歯科材料		
	15	材料学まとめ		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	定期試験			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・パソコン、 ほぼ毎回			

科目名	う蝕予防処置Ⅱ	1単位 全15講	開講学年	2学年
講師名	山田寛恵・高田梨沙・斉藤仁・千葉真奈美		評価方法	定期試験
教科目標				
◎う蝕予防処置をパブリックで応用するための計画を検討し実践することができる。				
◎カリエスリスクを判定できる。 ◎小窩裂溝填塞法を理解し施術することができる。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
◎う蝕予防処置の応用法を身につけ保育園実習で実践出来る。				
◎カリエスリスクテストについて理解を深め、患者に応用できるようになる。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
◎1年生で身に付けた知識と技術を外部実習で発揮してほしい。				
◎リスク判定やシーラントの技術を身につけ患者に応用できるようになってほしい。				
講 義 内 容	1	集団応用について 保育園実習ロールプレイ1 実習 教室		
	2	保育園実習ロールプレイ2 実習 教室		
	3	保育園実習ロールプレイ3 実習 教室		
	4	保育園実習 準備・流れの確認		
	行事	保育園実習(器材後始末・反省・カルテ整理)		
	5	集団応用について		
	6	集団応用 立案		
	7	集団応用 検討		
	8	小窩裂溝填塞法 講義		
	9	小窩裂溝填塞法 基礎実習		
	10	小窩裂溝填塞法 マネキン実習		
	11	斉藤先生 講義		
	12	サリバテスト		
	13	口腔内観察法 実習		
	14	小窩裂溝填塞法 相互実習		
15	2年次まとめ 知識整理			
の理 把握 程度	◎小テスト			
	◎インストラクターによる巡回チェック			
	◎実習レポート			
そ の 他	※この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	◎忘れ物をしない			
	◎実習の準備・後始末をしっかり行う			
使用機材	プロジェクター・パソコン・各実習器材(別紙参照)			

科目名	う蝕予防処置 I	1年生	1単位	全15講
講師名	山田寛恵	評価方法	定期試験 等	
教科目標				
◎う蝕のメカニズムについて理解できる。う蝕予防で使用する薬物の理解と知識の習得。				
◎薬物の応用ができる。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
◎歯科の2大疾患の1つであるう蝕の予防処置を、知識を持って安全に行う技術を身につける。				
◎2年生の保育園実習で実践予定の為、確実に習得する。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
◎知識を得るための実習体験が、より理解を高めるでしょう。				
◎患者体験をすることで、相手の気持ちがわかる歯科衛生士を目指してほしい。				
講 義 内 容	1	I 総説 ; 第1章 う蝕予防処置法序説□ 第2章 う蝕の知識		
	2	第3章 歯および唾液とフッ化物応用の知識		
	3	II 実習編 : 第1章 う蝕予防処置法のアウトライン		
	4	①フッ化物溶液・ゲルの作り方実習□ フッ化物溶液の味の確認実習		
	5	②綿球、綿棒、イオントレーに含まれる溶液量の確認 □ フッ化物洗口液の作成と味の確認		
	6	③綿球中のフッ素量の確認□ 飲み物等のフッ素量の測定		
	7	知識整理及び相互実習オリエンテーション		
	8	★フッ化物塗布マネキン実習		
	9	★フッ化物塗布相互実習(綿棒)		
	10	★フッ化物塗布相互実習(ピンセット)		
	11	齲蝕活動性試験 I ④-1 RDテスト、カオスタット□		
	12	齲蝕活動性試験 II ④-2 CAT21ハフ□		
	13	鍍銀法・フッ化ジアンミン銀の応用 ⑤フッ化ジアンミン銀の取り扱い実習□		
	14	⑥衣類の汚染処理実習		
	15	まとめ		
理 解 度 の 把 握	◎小テスト			
	◎インストラクターによる巡回チェック			
	◎実習レポート			
そ の 他	※この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	◎忘れ物をしない			
	◎実習の準備・後始末をしっかりと行う			
使用機材		プロジェクター・パソコン・各実習器材(別紙参照)		

科目名	カウンセリング理論	1年生	1単位	全 8 講
講師名	川端 里香	評価方法	テスト2回、レポート提出物での評価	
教科目標				
カウンセリングの基礎的な理論を理解し、医療現場で役に立つ技法を身につける				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
今までに皆さんが学んでいる、心理学の授業と重なるところもあると思います。そこから対人援助職とは何かというところに焦点をあてていきたいと思っています。そしてこれから社会人になるみなさんの人間形成に少しでもお役に立てればと思っています。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
この科目を学ぶ事により、人をすぐにカウンセリングできるようになるかというところではありません。この授業をきっかけに今後、生徒が人と関わる事を大切に思ってもらい、社会(現場)にでた時、目の前の方を大切に思えるような人材になって欲しいと思っています。				
講 義 内 容	1	オリエンテーション・カウンセリングとは・自分を知る		
	2	カウンセラーとは・基本的な態度		
	3	カウンセリングの流れ		
	4	カウンセリングの基礎的技法と演習		
	5	中間確認テスト		
	6	心の病気について(成人・児童)		
	7	心理アセスメントについて・演習		
	8	医療カウンセリング・本試験について		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理 解 度 の 把 握	5回目に中間テストを行いません。			
	いくつか提出してもらおう評価プリントがあります。しっかり取り組んで、必ず提出しましょう。			
そ の 他	本試験が終わるまでは、配布されたプリントは必ず保管しておくこと。			
使用機材	プロジェクター			

科目名	栄養と人体(栄養指導)	1年生	1単位	全 15 講
講師名	坂下 美樹	評価方法	小テスト・提出物・定期試験	
教科目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品を構成する栄養素について理解する ・ 栄養素の消化、吸収のプロセスを理解する ・ 食品をどのように組み合わせて食べることが健康を維持、増進することになるかを知る 			
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 献立づくりが上手にできると、美味しいだけではなく健康増進につながる。 歯や口腔全般もここに含まれることになる。 疾患を最小限にするための食べ方を科学的に理解し、予防医学を担う基礎にする 				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日、何気なく食べていたかもしれない食事は私たちの身体をつくる唯一の材料であった。 このことを改めて意識し、知識を増やすことで「食べること」が一層、貴重であり、健康を左右することを実感できる。 				
講 義 内 容	1	栄養素の種類と食品の具体的関連(五大栄養素)		
	2	日本人の栄養摂取状況		
	3	栄養素の消化・吸収		
	4	食事摂取基準と現状		
	5	食事摂取基準と現状		
	6	栄養素の働き		
	7	献立作成(グループワーク)、献立のコンセプトに照らして		
	8	調理の具体的手順、分担、食材リストの完成		
	9	調理実習		
	10	実習後の自班の評価と他班の献立評価 (レポート提出)		
	11	栄養素の働き		
	12	栄養素の働き<水と食物繊維>		
	13	望ましい食生活(生活習慣病予防を含めて)		
	14	ライフステージ別の栄養と調理		
	15	総括		
理 解 度 の 把 握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主献立での栄養学的理解 ・ 定期テスト ・ 小テスト ・ レポート 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な自身の食事に関心を持ってほしい。 どのようなものを食べているか、どのような食べ方をしているか(時間や食べる時の状況など)改めて、自覚することでまず自身が健康であることを大切に考えましょう。 マスコミなどでの健康情報の提供のされかたにも注意してほしいです。 			
使用機材	なし			

科目名	英語 I・II	学年	1年生
講師名	Peter Fjellstrom	2単位	全15講
評価方法	全ての講義終了後の終講試験にて評価。		
使用機材	プリント、ラジカセ		
教科 目 標	国際社会に対応し得る能力を養い、英会話の基礎を身に付ける。		
	医療従事者として、人体の部位の英単語及び医療的な英会話を身に付ける。		
講 義 内 容	1	日常の英単語	
	2	日常の英会話	
	3	身体部位の英単語	
	4	身体部位の英単語	
	5	医療英会話	
	6	医療英会話	
	7	リスニング	
	8	リスニング	
	9	海外の救急・教科書紹介	
	10	日常の英単語・発音	
	11	日常の簡単な英会話	
	12	身体部位の英単語・発音	
	13	医療英会話	
	14	患者との英会話	
	15	英語映画ビデオから会話を学ぶ	
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
到 達 度 の 把 握	全ての講義終了後の終講試験にて評価。(記述試験及びリスニング試験)		
そ の 他			

科目名	衛生学・公衆衛生学	2年生	1単位	全 15 講
講師名	畠中 柚衣	評価方法	定期試験	
教科目標				
①能動的な学習を促すこと				
②知識をつなげる学習を促すこと				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
今までの社会科の復習に似た内容もありますが、今後働く上で必要となる知識も多く大事な科目です。国家試験にも多くでる分野でもあるため必須な内容であると考えます。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
暗記事項も多く、難しい科目ではありますが国家試験のためにも社会人として就職するときにも役立つ知識がたくさんありますので、15コマぜひ頑張って励んでほしいです。				
講 義 内 容	1	総論		
	2	予防医学の概念		
	3	疫学		
	4	疫学		
	5	疫学		
	6	人口		
	7	人口		
	8	健康の概念		
	9	健康と環境		
	10	健康と環境		
	11	健康と環境		
	12	感染症		
	13	感染症		
	14	食品と健康		
	15	食品と健康		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	(例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。			
	・毎講義授業前半で前回の復習小テストを実施			
	・数回中間テスト実施			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			



科目名	衛生行政・社会福祉	2年生	2単位	全 15 講
講師名	高橋 大郎	評価方法	小テスト・定期テスト	
教科目標				
歯科衛生士に関わる法律や制度を理解する				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
各科目で習得した知識や技術が法律でどのように位置付けられているか				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
歯科衛生士法で定める歯科衛生士とはどのような資格であることをしっかり覚えて下さい。				
講 義 内 容	1	歯科衛生士と法律1		
	2	歯科衛生士と法律2		
	3	歯科衛生士と法律3		
	4	歯科衛生士と法律4		
	5	歯科衛生士と法律5		
	6	医療関係職種1		
	7	医療関係職種2		
	8	その他の関係法規1		
	9	その他の関係法規2		
	10	その他の関係法規3		
	11	社会保障1		
	12	社会保障2		
	13	社会保障3		
	14	医療の動向		
	15	小テストの解説		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	基本的には小テスト(記述式)で理解度を把握します。			
そ の 他	法律というなかなかなじめない内容の授業ですので教科書をしっかり読んで下さい。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			

科目名	解剖学	1年生	2単位	全 15 講
講師名	佐藤 英樹	評価方法	小テスト及び本試験の点数	
教科目標				
<p>身体の骨格・筋肉の部位・構造を解剖学的に理解する 神経や血管の分布、作用を解剖学的に理解する</p>				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
<p>これから医療人になるにあたり全身の基本的構造・仕組みを知ることが、これから学ぶ様々な病気・治療の深い理解へとつながる</p>				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
<p>これから学ぶすべての教科の基礎となる内容なので少しでもわかりやすく学ばせることができればと思います</p>				
講 義 内 容	1	序章解剖学総論		
	2	5章神経(脳・脊髄)		
	3	5章神経(末梢神経・自律神経)		
	4	7章感覚(皮膚・目・鼻)		
	5	7章感覚(耳・味覚器)		
	6	2回～5回まとめ		
	7	1章骨格系		
	8	4章循環		
	9	6章呼吸		
	10	2章筋と運動		
	11	2章筋と運動		
	12	3章消化・吸収		
	13	11章生殖器		
	14	10章内分泌器		
	15	復習・まとめ		
理解度の把握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	グループワーク等の授業での理解度チェック			
その他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	解剖学はこれからの歯科衛生士にとって武器になる学問かもしれないので1年生の最初に理解するには難しい内容ですが、少しずつ理解していきましょう			
使用機材		プロジェクター、 毎回		

科目名	教育学	1年生	1単位	全15講
講師名	大室 英幸	評価方法	レポート	
教科目標				
◎ 歯科衛生士になった時、様々な患者さんを受容できるような心を養う。				
◎ 社会人になるにあたり、こたえが一つ出ないものに対するアプローチの仕方を学ぶ。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
◎ 歯科衛生士になってから、受講生がよりよい人生を送ることができるようなことを学ぶ科目です。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
◎ 今の自分(とそのまわり)のみならず、様々な世界(人間・歴史)に目を向けてほしいです。				
講 義 内 容	1	話し合いの基本～好きな日地・嫌いな人～		
	2	メディアにだまされるな！！～我々はだまされやすい～		
	3	世代が違う人との接し方～泣く子ども・怒るお年寄り～		
	4	人に尽くすとは～井深 八重さんの人生～		
	5	児童虐待について ①～法律上の定義中心に～		
	6	児童虐待について ②～私(大室)の体験～		
	7	児童虐待について ③～田内 千鶴子さんの人生～		
	8	孤独とは何か ①～みんな孤独の感じ方は違う～		
	9	孤独とは何か ②～マザー・テレサは孤独を何と定義したか～		
	10	「必要でない存在」は、この世にいるのか ①～映画から見る様々な個性①～		
	11	「必要でない存在」は、この世にいるのか ②～映画から見る様々な個性②～		
	12	「必要でない存在」は、この世にいるのか ③～殺人の例～		
	13	「必要でない存在」は、この世にいるのか ④～職場内のいじめ～		
	14	「必要でない存在」は、この世にいるのか ①～田内 千鶴子さんの人生～		
	15	まとめ		
理 解 度 の 把 握	毎時間レポートを課す			
そ の 他	※この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	◎忘れ物をしない			
使用機材	ビデオ・DVD再生 (時々)			

科目名	口腔衛生・疫学	2年生	1単位	全 15 講
講師名	水谷 博幸	評価方法	試験、レポート、授業態度等を含めた総合評価	
教科目標	疫学の基本的な内容を把握し、医療の現場で用いられる資料から何がいえるかを読み取り、実際の使用する統計手法を身につけることを目標とする。			
この教科の位置づけ。				
疫学は国家試験に必ずと言って良いほど出題されている分野である。口腔衛生学と関連のある学問であり、歯科衛生士にとって重要な科目の一つである。				
本教科を口腔衛生学と結びつけて、「歯科衛生士」の実感を感じ取って欲しい。				
講 義 内 容	1	保健情報統計学とは	①疫学 記述疫学	
	2		②疫学 分析疫学 介入研究	
	3		③統計学とは 平均値 最頻値 中央値 分散	
	4	スクリーニング検査とは		
	5	スクリーニング試験の応用問題		
	6	齲蝕の抑制率とは		
	7		前 期 の 復 習	
	8		中 間 試 験	
	9	口腔の不潔因子		
	10	唾液の作用		
	11	歯科疾患の指数	①歯に関する指標 ②歯周疾患に関する指標	
	12	歯科疾患の指数	③歯口清掃に関する指標 ④その他	
	13	齲蝕の抑制率とは		
	14		総 復 習 ①	
	15		総 復 習 ②	
理 解 度 の 把 握	小テスト			
	中間試験(30%)を実施することで、より勉強してくれると考える。			
そ の 他				
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			

科目名	口腔解剖学	1年生	2単位	全15講
講師名	笹谷 聖	評価方法	出席、小テスト、定期試験	
教科目標				
頭頸部と顎顔面の構造を詳細に学びます。解剖学的構造と機能の関連を把握し、臨床専門科目修得のための基礎知識を深めます。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
解剖学は医学・歯学のなかで最も基礎的な学問です。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
丸暗記では苦手意識を持ってしまいがちな科目です。文字だけでなく視覚的理解するように心がけてください。				
講義内容	1	口腔とは		
	2	口腔を構成する骨① 頭蓋の概要		
	3	口腔を構成する骨② 上顎骨、口蓋骨		
	4	口腔を構成する骨③ 下顎骨、舌骨		
	5	頭頸部の筋と作用① 表情筋		
	6	頭頸部の筋と作用② 咀嚼筋、舌筋		
	7	頭頸部の筋と作用③ 頸部の筋、顎下三角とオトガイ下三角		
	8	顎関節		
	9	まとめ①		
	10	まとめ②、口腔付近に分布する脈管系① 動脈系①		
	11	口腔付近に分布する脈管系② 動脈系②		
	12	口腔付近に分布する脈管系③ 静脈系、リンパ系		
	13	神経① 三叉神経		
	14	神経② 顔面、舌咽、迷走、舌下神経、脊髄神経、自律神経		
	15	まとめ③		
理解度の把握	毎回講義開始前に小テストを行います。			
その他	配布資料の穴埋め形式で講義を進めます。			
使用機材	プロジェクター・パソコン、 ほぼ毎回			

科目名	口腔生理学	1年生	1単位	全 8 講
講師名	倉橋 昌司	評価方法	定期試験(100点)	
教科目標				
健全な口腔機能を保つための諸機能とその調節について学び、口腔解剖学、口腔組織発生学などの知識を加え、ヒトの「口腔諸器官の働き」の基本を理解する。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
解剖学および生理学で学んだ「ヒトの生きる仕組み」の理解を基本とし、病理学・口腔病理学、薬理学・歯科薬理学、歯・口腔の健康と予防の基礎となる科目です。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
歯と口腔の感覚、味覚、咬合と咀嚼・吸啜、嚥下と嘔吐、発声、唾液の各口腔機能の理解は歯科衛生士にとって基本中の基本です。集中して授業に取り組むことを期待しています。				
講 義 内 容	1	Ⅱ編 3章 歯および歯周組織の機能 I編 顎・口腔の機能 3章 歯と口腔の感覚		
	2	I編 顎・口腔の機能	4章 味覚と嗅覚	
	3		5章 咬合と咀嚼・吸啜(①下顎位～③顎反射)	
	4		5章 咬合と咀嚼・吸啜(④摂食行動～⑥吸綴)	
	5		6章 嚥下と嘔吐	
	6		7章 発声	
	7		8章 唾液(①唾液腺、②唾液の分泌機構)	
	8		8章 唾液(③唾液の性状・成分と機能、④唾液と疾患)	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	1. 各授業毎に、学習自己評価により授業内容の理解度を確認します。			
	2. 授業についての質問、意見を聴取し、次回授業において、質問への説明、意見への対応を伝えます。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	1. 授業内容の中で、関連科目においてより詳細に学習する内容については、当該関連科目教科書等を参照し、内容理解に努めて下さい。			
使用機材	授業は、教科書および配布プリントを用いて行い、特に視聴覚機材は使用しない。			

科目名	口腔保健と地域保健	開講学年	2年
講師名	高橋大郎	1単位	全 15講
評価方法	小テスト、定期テストの合計による評価		
使用機材	プロジェクター・パソコン(毎回)		
教科 目 標	各歯科疾患の発生と予防法が理解できること		
	ライフステージにあわせた歯科保健活動やそれに関わる組織・法律などについて理解できること		
講 義 内 容	1	序論	
	2	Ⅱ編 第4章 う蝕の予防	
	3	Ⅱ編 第5章 フッ化物によるう蝕予防	
	4	Ⅱ編 第6章 歯周疾患の予防	
	5	Ⅱ編 第7章 その他の疾患・異常の予防	
	6	Ⅱ編 第7章 口臭の予防	
	7	Ⅱ編 第8章 ライフステージごとの口腔保健管理 Ⅲ編 1章 地域保健・公衆衛生	
	8	Ⅲ編 第1章 地域保健・公衆衛生 国家試験問題の練習1	
	9	Ⅲ編 第2章 母子保健	
	10	Ⅲ編 第3章 学校保健 成人保健	
	11	Ⅲ編 第4・6章 老人(高齢者)保健	
	12	Ⅲ編 第5章 産業保健 精神保健	
	13	Ⅲ編 第7章 国際保健	
	14	Ⅲ編 国家試験の問題の練習2	
	15	小テストの解説	
理 解 度 の 把 握	記述式小テストを実施し、その得点を集計して、理解度の確認をします。		
	小テストと定期試験の結果から成績を判定します。		
そ の 他	資料の一切配布はしません。スライドと教科書で授業をします。		

科目名	生活科学	2年生	1単位	全 15 講
講師名	青山 重美	評価方法	レポート	
教科目標	日常生活の中の科学的な事柄について具体的に学ぶ			
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
一人の個人として、また職業人として生活の質の向上を目指し、 よき人生(生活)を送る				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
知識とともに科学的思考、判断力を身につけていただきたい				
講 義 内 容	1	オリエンテーション		
	2	総合衣食住入門 色・追熱について		
	3	(住)防犯 人生設計 家庭家族1		
	4	(住)防犯 人生設計 家庭家族2		
	5	防犯復習 人生家族 食と環境問題		
	6	家庭と経済		
	7	食と消費者教育 基礎(調味料)		
	8	調理実習		
	9	調理実習		
	10	総復習 衣食住 地域と住まい		
	11	衣食住 フットケア		
	12	住生活 高齢期の住まい		
	13	学習発表		
	14	学習発表		
	15	学習発表		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	(例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	自分だけでなく周囲の人々(患者・自分の家族)の生活についても理解、思いやりがある人になることを希望します			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			

科目名	生物	1年生	1単位	全 8講
講師名	岩田 朋己	評価方法	小テスト・提出物・定期試験	
教科目標				
高校で生物学を履修していない生徒に今後に必要な生物学の基礎を修得してもらう。				
高校で履修している生徒には、生物学の復習をしてもらう。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
今後の生物学・解剖学などを行うまでの基礎となる聖提言の知識を得て、今後の専門科目に活かしていく。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
講 義 内 容	1	細胞と個体、光学顕微鏡の使い方		
	2	細胞の発見。代謝とエネルギー代謝。酵素		
	3	光合成と呼吸。単細胞の生物と多細胞生物		
	4	遺伝子の本体であるDNA。DNAの構造。		
	5	恒常性と体液。赤血球の働き。血液凝固		
	6	体液の循環。ニューロン。中枢神経		
	7	自律神経系とホルモン		
	8	人のホルモン		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理 解 度 の 把 握				
そ の 他				
使用機材		なし		

科目名	生理学	1年生	2単位	全 15 講
講師名	倉橋 昌司	評価方法	定期試験(100点)	
教科目標				
生活の基本となる人体の生理機能とその調節について学び、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
生物学、化学、物理学などの知識を基礎として、解剖学及び組織発生学などの知識を加え、「ヒトの生きる仕組み」を理解する科目であり、口腔生理学の基礎となる科目です。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
人体の構造と機能の理解は、対人援助者としての基本です。また自分自身を知るという意味でも重要なことです。初めての言葉、内容に戸惑うことがあると思いますが、集中して授業に取り組むことを期待しています				
講 義 内 容	1	序章 生理学で学ぶこと		
	2	Ⅱ編 構造と機能 5章 神経系1 神経系の構成		
	3	5章 神経系2 中枢神経系1		
	4	5章 神経系2 中枢神経系2、末梢神経系		
	5	7章 感覚1 感覚の基本的性質、体性・内臓感覚、特殊感覚1		
	6	7章 感覚2 特殊感覚2		
	7	2章 筋と運動		
	8	4章 循環1 血液		
	9	4章 循環2 心臓、血管、リンパ		
	10	6章 呼吸		
	11	3章 消化・吸収		
	12	8章 排泄		
	13	9章 体温、10章 内分泌1		
	14	10章 内分泌2		
	15	11章 生殖		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	1. 各授業毎に、学習自己評価により授業内容の理解度を確認します。 2. 授業についての質問・意見を聴取し、次回授業において、質問への説明、意見への対応を伝えます。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	1. 授業内容の中で、関連科目においてより詳細に学習する内容については、当該関連科目教科書等を参照し、内容理解に努めてください。			
使用機材	授業は、教科書および配布プリントを用いて行い、特に視聴覚機材は使用しない。			

＜歯科衛生士学科 シラバス＞

科目名	摂食嚥下リハビリテーション	3年生	2単位	全 15 講
講師名	佐藤美帆・田村香織	評価方法	定期試験	
教科目標				
・訪問歯科診療に必要な知識・技術を身につける				
・周術期口腔機能管理についての知識を身につける				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
・高齢化社会をむかえ、訪問歯科診療のニーズが高まっている中、歯科衛生士に必要な訪問歯科の現場力・実践力を身につけることで、基礎が応用につながる				
・周術期口腔機能管理が現場で実際にどのように行われ歯科衛生士が関わっているかこれから就職してどのように関わっていくかを学ぶ。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
・訪問歯科の仕組みを知ることで、訪問歯科診療に興味を持ってもらい、歯科衛生士としての「やりがい」「楽しさ」を感じてもらいたいと思います。				
・これから就職して患者様と関わっていきなかで必要な知識になるのでここで興味を持ってもらいたい				
講 義 内 容	1	訪問歯科診療とは		
	2	訪問歯科診療に求められる歯科衛生士		
	3	周術期口腔機能管理とは		
	4	周術期口腔機能管理に必要な知識		
	5	口腔ケアの目的		
	6	口腔ケアの基礎		
	7	嚥下訓練		
	8	口腔ケア・実習		
	9	病院歯科・歯科口腔外科に勤務する歯科衛生士の1日		
	10	病院歯科・歯科口腔外科を受診する患者の特徴		
	11	周術期口腔機能管理		
	12	周術期口腔機能管理の実際		
	13	訪問歯科で必要な物品		
	14	摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセス①		
	15	摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセス②		
の理 把解 握度	試験・実習内容にて行う			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	特になし			
使用機材	プロジェクター・MacPCの接続アダプター 毎回			

科目名	組織・発生学	1年生	1単位	全8講
講師名	小池 和哉	評価方法	定期試験	
教科目標				
病態を見て組織ではどんなことが起きているのかを想像できるようになる。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
組織は解剖に直結するとともに、病理・病態の理解に必要不可欠である。正しく組織・病態を理解することで的確な診断と治療方針・治療方法を考えることができるようになると思う。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
できるだけわかりやすい言葉と図で組織を身近に感じてくれたらと思います。基礎の理解がない臨床はつまらないから。				
講 義 内 容	1	細胞内小器官の種類と構造		
	2	組織の種類と構造		
	3	口腔粘膜の種類と構造		
	4	唾液腺の種類と構造		
	5	人体・口腔顎顔面の発生		
	6	歯と歯周組織		
	7	歯と歯周組織の構造		
	8	試験対策問題演習		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理 解 度 の 把 握	前回分の小テストと講義の感想			
そ の 他	※この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材		プロジェクター・パソコン 等		

＜歯科衛生士学科 シラバス＞

科目名	総合演習（後期）	3年生	4単位	全 60講
講師名	松橋 未香	評価方法	マークシート試験	
教科目標				
国家試験合格のための模擬試験の実施				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
すべての科目の総合試験				
模擬試験の振り返り				
講 義 内 容	1	模擬試験6回目 ①		
	2	模擬試験6回目 ②		
	3	模擬試験6回目 ③		
	4	模擬試験6回目 ④		
	5	模擬試験6回目振り返り ①		
	6	模擬試験6回目振り返り ②		
	7	模擬試験7回目 ①		
	8	模擬試験7回目 ②		
	9	模擬試験7回目 ③		
	10	模擬試験7回目 ④		
	11	模擬試験7回目振り返り ①		
	12	模擬試験7回目振り返り ②		
	13	模擬試験8回目 ①		
	14	模擬試験8回目 ②		
	15	模擬試験8回目 ③		
	16	模擬試験8回目 ④		
	17	模擬試験8回目振り返り ①		
	18	模擬試験8回目振り返り ②		
	19	模擬試験9回目 ①		
	20	模擬試験9回目 ②		
	21	模擬試験9回目 ③		
	22	模擬試験9回目 ④		
	23	模擬試験9回目振り返り ①		
	24	模擬試験9回目振り返り ②		
	25	模擬試験10回目 ①		
	26	模擬試験10回目 ②		
	27	模擬試験10回目 ③		
	28	模擬試験10回目 ④		
	29	模擬試験10回目振り返り ①		
	30	模擬試験10回目振り返り ②		
試験	総合演習試験(卒業試験)			

＜歯科衛生士学科 シラバス＞

科目名	総合演習（前期）	3年生	4単位	全 60講
講師名	松橋 未香	評価方法	マークシート試験	
教科目標				
国家試験合格のための模擬試験の実施				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
すべての科目の総合試験				
模擬試験の振り返り				
講 義 内 容	1	模擬試験1回目 ①		
	2	模擬試験1回目 ②		
	3	模擬試験1回目 ③		
	4	模擬試験1回目 ④		
	5	模擬試験1回目振り返り ①		
	6	模擬試験1回目振り返り ②		
	7	模擬試験2回目 ①		
	8	模擬試験2回目 ②		
	9	模擬試験2回目 ③		
	10	模擬試験2回目 ④		
	11	模擬試験2回目振り返り ①		
	12	模擬試験2回目振り返り ②		
	13	模擬試験3回目 ①		
	14	模擬試験3回目 ②		
	15	模擬試験3回目 ③		
	16	模擬試験3回目 ④		
	17	模擬試験3回目振り返り ①		
	18	模擬試験3回目振り返り ②		
	19	模擬試験4回目 ①		
	20	模擬試験4回目 ②		
	21	模擬試験4回目 ③		
	22	模擬試験4回目 ④		
	23	模擬試験4回目振り返り ①		
	24	模擬試験4回目振り返り ②		
	25	模擬試験5回目 ①		
	26	模擬試験5回目 ②		
	27	模擬試験5回目 ③		
	28	模擬試験5回目 ④		
	29	模擬試験5回目振り返り ①		
	30	模擬試験5回目振り返り ②		
試験	総合演習試験			

＜2019年度 歯科衛生士学科 シラバス＞

科目名	卒業研究	3年生	2単位	全 30 講
講師名	専任教員	評価方法	卒業研究発表時のプレゼンカ	

教科目標

これまでの学習成果の集大成として個人またはグループでまとめ発表する

この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？

歯科衛生士業務に関する事例を挙げ問題を自ら発見・探求し、計画力

行動力・マネジメント力・プレゼン力を養う

この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。

将来、歯科衛生士として症例発表や学会でのプレゼンが出切る様になってほしい。

講 義 内 容	1	卒業研究の目的
	2	近年の歯科衛生士に求められている業務展開
	3	これまでの関連研究の調査
	4	テーマの決定①
	5	テーマの決定②
	6	テーマの決定③
	7	テーマの決定④
	8	テーマの決定⑤
	9	研究対象と方法の検討①
	10	研究対象と方法の検討②
	11	方法に従いデータの情報収集①
	12	方法に従いデータの情報収集②
	13	方法に従いデータの情報収集③
	14	方法に従いデータの情報収集④
	15	方法に従いデータの情報収集⑤
	16	データの分析、まとめ
	17	データからの結果・考察
	18	結論
	19	PP作成 1
	20	PP作成 2
	21	PP作成 3
	22	PP作成 4
	23	PP作成 5
	24	PP最終構成
	25	抄録作成
	26	まとめ
	27	表現力・プレゼンカ
	28	学科卒業研究発表①
	29	学科卒業研究発表②
	30	卒業研究発表会

科目名	微生物学・口腔微生物学	1年生	2単位	全 15 講
講師名	宮川 博史	評価方法	試験、レポート、授業態度等を含めた総合評価	
教科目標	微生物の特徴を学び、その病原性、病原因子と疾患との関連について説明できる。			
生体防御機構としての免疫システムの作用機序について説明できる。				
この教科の位置づけ。				
高校で生物学を学んだ人には復習に感じられるかもしれないが、微生物学は後に勉強する「口腔衛生学」と密				
関連があり、歯科衛生士にとって重要な科目の一つである。				
本教科を学ぶことにより、少しでも「歯科衛生士になるんだ！」となる実感が持てるようにしたい。				
講 義 内 容	1	微生物学とは、口腔微生物学とは。 微生物の歴史		
	2	微生物の一般的性状 I 細菌 ①細菌の分類		
	3	②細菌の形態・構造		
	4	II ウイルス III その他		
	5	感染 ①感染の成り立ち ②感染の歴史		
	6	③感染症の種類 ④感染症分類		
	7	食中毒 種類と特徴		
	8	免疫 I 免疫とは ①免疫の発現 ②免疫の種類		
	9	II 免疫機構 ①抗原と抗体 ②サイトカイン ③その他		
	10	III アレルギー I型～IV型		
	11	口腔内の不潔因子 菌垢、菌石 他		
	12	唾液の役割		
	13	口腔感染症 ①う蝕の原因菌と成り立ち		
	14	口腔感染症 ②歯周疾患の原因菌と成り立ち ③その他		
	15	総 復 習		
理 解 度 の 把 握	小テスト			
そ の 他	授業態度も成績に加味する。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			

科目名	病理学・口腔病理学	1年生	2単位	全 15 講
講師名	高井 理衣	評価方法	試験、レポート、授業態度等を含めた総合評価	
教科目標				
歯科医学の進歩の歴史、ヒトの疾病像(原因、身体の変化、診断、治療など)について概論的に学ぶ。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
歯科医学の根底に位置する学問である。ほぼ全ての専門科目、実習につながる臨床の場における患者さんの病態についての理解に役立つ。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
この科目を勉強することで、将来出会う患者さんの体に起こっている病気について理解を深めてほしいと思います。				
講 義 内 容	1	I 編病理学総論(1章序論と病因論、3章循環障害)		
	2	I 編病理学総論(4章代謝障害と退行性病変)		
	3	I 編病理学総論(5章増殖と修復)		
	4	I 編病理学総論(6章炎症と免疫応答異常)		
	5	I 編病理学総論(6章炎症と免疫応答異常)		
	6	II 編口腔病理学(1章歯の発育異常、2章歯の損傷と着色・付着物)		
	7	II 編口腔病理学(3章う蝕、4章象牙質・歯髄複合体の病態)		
	8	II 編口腔病理学(5章歯周組織の病態)		
	9	II 編口腔病理学(6章口腔粘膜の病変)		
	10	II 編口腔病理学(12章口腔組織の加齢変化)		
	11	I 編病理学総論(7章腫瘍) II 編口腔病理学(7章口腔領域の嚢胞と腫瘍、8章口腔癌)		
	12	I 編病理学総論(7章腫瘍) II 編口腔病理学(7章口腔領域の嚢胞と腫瘍、8章口腔癌)		
	13	II 編口腔病理学(顎骨の病変)		
	14	II 編口腔病理学(10章唾液腺の病変)		
	15	I 編病理学総論(2章遺伝性疾患と奇形) II 編口腔病理学(11章口腔領域の奇形)		
理 解 度 の 把 握	小テストおよび授業中に行う問題演習や口頭試問など。			
そ の 他	授業態度も成績に加味する。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、			ほぼ毎回・時々

科目名	保健体育	1年生	1単位	全15講
講師名	仁井 有介	評価方法	出席・受講態度	
教科目標				
◎ 集中力をつける・体幹を鍛える・自分の体を知って美しい姿勢を保つ				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
◎筋力をつけ正しい姿勢を維持できる体を作り、チェアサイドで美しい姿勢で施術ができる				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
講 義 内 容	1	ヨガとは？を理解し、楽しんでもらえるよう、色々なポーズをとる		
	2	体力づくり、体づくり運動(ペアチーム)、球技		
	3	競歩遠足(近隣公園まで移動し、軽運動)		
	4	体力づくり、体づくり運動(ペアチーム)、球技		
	5	集中力の強化、仲間を信頼するチームワーク作り、体幹強化		
	6	体力づくり、体づくり運動、球技		
	7	体力づくり、体づくり運動、球技(バレーボール)		
	8	体力づくり、自分の心を知る、相手の心と体を知る、メンテナンス法		
	9	体力づくり、体づくり運動、球技(バトミントン)		
	10	体力づくり、自分の心を知る、相手の心と体を知る、美しい姿勢		
	11	集中力の強化、体幹強化		
	12	ヨガの良さについておさらい、〈美〉について		
	13	集中力の強化、体幹強化		
	14	体力づくり、体づくり運動、球技(バレーボール)		
	15	競歩遠足(近隣公園まで徒歩で移動し、軽運動)		
理解度の把握				
その他	※この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材				

科目名	保存修復学	2年生	1単位	全 15 講
講師名	鈴木 一矢	評価方法	定期テスト	
教科目標	保存修復学の理論を理解する			
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
臨床に必要な材料や機器についての知識を学習する				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
歯科衛生士の臨床業務に直結するので、出来るだけ分かりやすく説明する事を心がけます。				
講 義 内 容	1	概論		
	2	硬組織疾患		
	3	齲蝕		
	4	窩洞		
	5	保存修復治療の準備		
	6	窩洞・切削器具		
	7	歯髄の保護		
	8	保存修復法の種類・コンポジットレジン1		
	9	コンポジットレジン2		
	10	ガラスイオノマー修復		
	11	メタルインレー修復		
	12	セラミックインレー修復		
	13	ベニヤ修復		
	14	ホワイトニング		
	15	まとめ		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	(例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・パソコン 毎回			

科目名	薬理学・歯科薬理学	1年生	2単位	全15講	
講師名	山崎 和	評価方法	試験(小試験含む)		
教科目標					
薬物の体内における動態と作用を理解し薬理学の基礎的知識を得る					
歯科薬理学の歯科衛生士国家試験に十分対応できるレベルに到達する					
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？					
薬物と生体相互作用を、生理学の基礎を通して学ぶ事により、歯科分野で使用する薬剤についての安全で適正な臨床応用を理解することにつながります。さらに、一般臨床応用薬剤の目的と作用を把握できるため、					
薬剤を服用している患者の全身状態を判断、推測することが可能となります。					
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。					
この科目を注意深く履修することによって、生体機能と薬物との関係を知ることができます。					
特に薬理学は、暗記する事よりも理解することが大切です。なぜ、どうして、と考える能力が必要とされます。					
本講義では難しい事柄を易しく分かりやすく説明します、講義に集中し想像力を働かせてください。					
講 義 内 容	1	薬物の作用 薬物の動態			
	2	薬物の適用方法の種類と特徴	* 医薬品を適用する際の注意		
	3	薬物の作用に影響を与える因子	*薬物の取り扱い		
	4	薬物の副作用	* 薬物と法律・薬物と医薬品		
	5	ビタミンとホルモン			
	6	末梢神経系に作用する薬物			
	7	中枢神経に作用する薬物			
	8	循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物			
	9	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物			
	10	血液に作用する薬物			
	11	免疫と薬			
	12	悪性腫瘍と薬、代謝系疾患治療薬			
	13	炎症と薬 痛みと薬 局所麻酔薬			
	14				
	15	ウ蝕予防薬・歯内療法薬 歯周疾患治療薬			
理 解 度 の 把 握	毎時間レポートを課す				
	中間試験を実施する				
	概ね2コマ終了毎に課題				
そ の 他	※この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。				
	質問されたら、正解かどうかを考えないで、積極的に自分の意見を言ってみましょう。				
	授業中、おしゃべりとお化粧をしてはいけません				
使用機材	プロジェクター・パソコン その他(プリント配布) 、 ほぼ毎回 ・時々				

科目名	臨床検査法	開講学年	2年
講師名	鈴木 春樹、渡邊 千秋	1単位	全8講
評価方法	講義終了後に試験を実施する		
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他(印刷資料)、 ほぼ毎回・時々		
教科 目標	臨床検査の目的、意義、種類、検査方法について理解を深める		
講 義 内 容	1	臨床検査概論、画像検査、一般検査	
	2	生化学検査、免疫・血清検査、	
	3	生理検査	
	4	血液検査、凝固・線溶検査	
	5	血液型検査、輸血検査	
	6	生化学検査、感染症検査、病理検査、生体検査	
	7	血液検査・尿検査 実習	
	8	血液検査・尿検査 実習	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に学生の到達度、理解度の確認を行う予定を可能な範囲で具体的にご記入をお願いいたします。 (例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。		
	全コマ終了後にテストを実施		
そ の 他	あらかじめ学科から学生に伝えておくこと、用意するものなどがありましたら、ご記入ください。		

科目名	隣接医学	2年生	2単位	全 15 コマ
講師名	大久保 直登 先生	評価方法	小テスト・テスト・出席率	
教科目標	歯科衛生士として知っておくべき全身疾患を理解する			
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
1年次に学習した身体に関する基礎知識(解剖学、生理学など)と病態に関する基礎知識(病理学など)をリンクさせ、実践向け知識へと昇華させる。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
口腔以外の知識を身につけることで、皆さんが病態に対する広い視野を持った歯科衛生士を目指すきっかけとなるように講師として努力します。				
講 義 内 容	1	隣接医学とは？ 代謝・内分泌疾患-1(糖尿病)		
	2	代謝・内分泌疾患-2(骨粗鬆症・甲状腺疾患)		
	3	消化器疾患(①②③)		
	4	消化器疾患(④肝炎・肝硬変)		
	5	循環器疾患		
	6	血液疾患		
	7	呼吸器疾患		
	8	腎・泌尿器疾患-1		
	9	腎・泌尿器疾患-2		
	10	免疫応答・膠原病		
	11	感染症		
	12	神経疾患、精神疾患(①心身症・神経症)		
	13	精神疾患(②③④)、がん		
	14	産科・婦人科疾患・妊娠		
	15	隣接医学関連国家試験対策授業		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	授業中の口頭試問など.中間テストも実施予定。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	1年次の専門基礎分野で一度履修している複数の科目を総合したような内容となります。 病理学や生理学などを簡単に復習して講義に臨むと理解度がかなり増すと思います。			
使用機材	プロジェクター・毎回 ノートパソコンは持参いたします			

科目名	心理学	1年生	1単位	全 8 講
講師名	松岡 紘史	評価方法	定期テスト、小テスト、出席を総合して判断	
教科目標				
心理学の基本的な概念を理解する				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
心の学問である心理学の概要やその内容を知ることは、臨床現場を経験した際に、心の動きを含めて対応可能な医療者となれる。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
自分の身近なところに心理学の考えが応用できる部分があることに気がついて欲しいと思います。				
講 義 内 容	1	知覚		
	2	学習		
	3	記憶		
	4	動機づけ		
	5	感情・情動		
	6	知能・パーソナリティ		
	7	社会・文化		
	8	臨床心理学		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理 解 度 の 把 握	7コマ終了後に模擬試験を行なう。			
そ の 他				
使用機材	プロジェクター			

科目名	数学・統計学	1年生	1単位	全 8 講
講師名	小田嶋 清幸	評価方法	終講時試験及び授業態度	
教科目標				
歯科衛生士の専門科目を理解する上で必要な数学基礎理論とその応用について学習する				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
中学・高校の復習と感ずることもあると思われますが、今後の進路において生命に係わる科目であるので大切な学習である。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
1. これまでの学習とこれからの学習の積み重ねにより、数学は楽しいものと思って欲しい。				
2. 解かる喜びを感じたり、やればできるとして欲しい。				
講 義 内 容	1	①授業オリエンテーション<基礎学力テストも含む>		
		②素因数分解・分数と約分(倍数の判定等)		
	2	①最大公約数・最大公倍数		
		②小数⇔分数、小数の四則演算、割分厘・百分率		
	3	①分数の四則演算		
		②仮分数⇔帯分数 繁分数の計算		
	4	①計算の順序・指数計算		
		②計算の順序の応用		
5	①次方程式			
	②比の値・連比・逆比			
6	①食塩水の問題			
	②単位の学習			
7	①統計学			
	②平均値・偏差・分散・標準偏差			
8	①フッ素急性中毒			
	②数学・統計学のまとめ			
理 解 度 の 把 握	<小テスト以外に到達度、理解度の確認を行なう方法>			
	1. 毎時間プリント作成(練習問題・補充問題)により理解度を確認する。			
	2. 授業時間において常に質問が出来る雰囲気を作り、理解度を確認する。			
そ の 他	<この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと>			
	1. 毎時間、確認テスト実施(採点は生徒間です。)評価に繋がります。			
	2. 授業を大切にしてほしい。(A4のファイルやノートの準備があれば整理が楽です)			
使用機材				

科目名	生化学	1年生	2単位	全 15 講
講師名	高井 理衣	評価方法	・定期試験	
教科目標	ヒトは60兆個の細胞から出来ており、その1つ1つが統合され組織が出来、個体を形成している。			
その生命活動を支配しているのは1つ費筒の分子で、その統合が生命活動である。そのため、分子レベルで生命を理解する事は生命理解することである。本教科では生命の分子活動について理解することを目標とする。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
解剖学は生命をマクロから学ぶに対して、生化学は生命をミクロで理解する。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
生命現象の根本的な理解になるように学習して欲しい。				
講 義 内 容	1	栄養素の基本構造		
	2	食物と消化、吸収、運搬、排泄		
	3	エネルギーと制御1		
	4	エネルギーと制御2		
	5	体の調節機能1		
	6	体の調節機能2		
	7	遺伝と遺伝子発現調節1		
	8	遺伝と遺伝子発現調節2		
	9	結合組織		
	10	コラーゲン		
	11	歯のバイオロジー1		
	12	歯のバイオロジー2		
	13	唾液		
	14	プラーク		
	15	歯周疾患と骨粗鬆症		
理 解 度 の 把 握				
そ の 他				
使用機材				

科目名	歯牙解剖学	1年生	1単位	全 15 講
講師名	永井 格	評価方法	定期試験	
教科目標				
ヒトの歯の形態学的特徴および形態異常を学び、その構造と機能の関連を理解し、歯科臨床科目を				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
永久歯・乳歯のそれぞれの歯種の形態的特徴と臨床解剖学的問題点を理解し、各歯の特徴をとらえた				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
ヒトの歯の形態、個々の歯で形成される歯列、さらに上下顎の歯列の対向関係である咬合の形態や基礎を学んでほしい。				
講 義 内 容	1	歯の機能、交換、種類と数、歯の表示法、歯式		
	2	歯の位置による名称、歯の用語、根管形態、歯の左右鑑別		
	3	永久歯の特徴、上下顎の中切歯、側切歯、犬歯の形態学的特徴		
	4	上下顎の第一小臼歯、第二小臼歯の形態学的特徴		
	5	上下顎の第一大臼歯、第二大臼歯の形態学的特徴		
	6	乳歯の特徴、上下顎の中切歯、側切歯、犬歯の形態学的特徴		
	7	上下顎の第一乳臼歯、第二乳臼歯の形態学的特徴		
	8	特色のある歯の形態について		
	9	カービングについて		
	10	歯列と咬合		
	11	上顎前歯部 デッサンの仕方について		
	12	上顎第一大臼歯 デッサンの仕方について		
	13	上顎前歯部の削り出し		
	14	上顎第一大臼歯の削り出し		
	15	上顎前歯・第一大臼歯仕上げ		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法 (例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。			
	毎回の5分間テスト			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	教科書および講義ノートで予習すること			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他(講義ノート)、 毎回			

科目名	歯周療法学	2年生	1単位	全 15 講
講師名	加藤昭人・竹生寛恵	評価方法	定期試験	
教科目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患の病態について正しく理解し、説明できる。 ・各種診査法を理解し、歯周治療の重要性と進め方、内容を十分理解できる 				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
歯周療法学は診査に始まり、患者さんへの説明、治療、動的治療後のメンテナンスと歯科衛生士が主体となっていける内容が多い科目です。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
今後の臨床実習や歯科衛生士の実務に直結する授業ですので、しっかり内容理解して下さい。疑問点や質問があれば、どんどん聞いて下さい。				
講 義 内 容	1	歯周病とは		
	2	歯周組織の構造と機能		
	3	歯周疾患の分類		
	4	歯周疾患の原因		
	5	治療の進め方		
	6	診査1		
	7	診査2		
	8	基本治療1		
	9	基本治療2		
	10	基本治療3		
	11	歯周外科1		
	12	歯周外科2		
	13	分岐部病変の治療		
	14	リハビリテーション		
	15	メンテナンス		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	(例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、			ほぼ毎回・時々

科目名	歯内療法学	2年生	1単位	全 15 講
講師名	鷺巣太郎・大畠理紗	評価方法	定期試験	
教科目標	歯内療法学について理解し業務を確実にこなせるようにする。			
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
歯内療法学は歯科衛生士の行う治療ではありませんが、高頻度で行われる治療です。手順や器具について理解し、診療補助を確実にこなせるようにしましょう。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
なるべく講義では写真や図、動画を使用し、理解してもらうように心がけます。				
講 義 内 容	1	歯内療法学の概要①		
	2	歯内療法学の概要②、歯髄保存療法		
	3	歯髄保存療法		
	4	歯髄保存療法(IPC法)、		
	5	歯髄の除去療法(歯髄切断法)		
	6	歯髄の除去療法(抜髄法)		
	7	根管治療①		
	8	根管治療②		
	9	根管充填		
	10	歯の漂白		
	11	根未完成歯の歯内療法、外科的歯内療法		
	12	歯の外傷		
	13	歯内療法における安全対策		
	14	歯内療法における歯科衛生士の役割①		
	15	歯内療法における歯科衛生士の役割②		
理 解 度 の 把 握	小テスト			
そ の 他				
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他(配布資料)、			

科目名	社会保険・請求事務	2年生	1単位	全 8 講
講師名	早乙女 美佳 先生	評価方法	定期試験	
教科目標				
保険診療のしくみを理解する				
歯科診療報酬と、その算定方法について学ぶ				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
診療報酬として術式ごとに学ぶ内容が、これまでの臨床科目で理解したことや、				
今後の学外実習において診療の流れを理解することにつながると思われます。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
「請求事務は医療機関の経営にかかわる重要な仕事」という認識をもって取り組んでほしい。				
講 義 内 容	1	医療保険と保険診療のしくみ		
	2	保険給付と請求のしくみ		
	3	基本診療料(初再診)		
	4	医学管理・検査		
	5	投薬料		
	6	画像診断		
	7	処置・手術(算定の原則と加算)		
	8	麻酔		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	カルテ演習にて点数算定ルールを理解度を確認			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他(書画カメラ)			ほぼ毎回 時々

科目名	小児歯科学	2年生	1単位	全 15 コマ
講師名	北村 かおる	評価方法	定期試験	
教科目標	小児歯科学について学ぶ			
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
<p style="text-align: center;">小児歯科診療の概略を知る 小児歯科における症例や対応方法を学ぶことで実践に繋がる</p>				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
<p style="text-align: center;">毎回、小テストを実施し学生の理解度を確認しながら進行します。</p>				
講 義 内 容	1	小児歯科学概論		
	2	小児の心身の発育について		
	3	小児の心身の発育について生理的特徴・顎顔面の発育過程		
	4	歯の発育と異常		
	5	歯の発育と異常②		
	6	歯列の発育異常 ウ蝕について		
	7	小児のウ蝕② 歯周疾患		
	8	小児の歯周疾患2・小児期の特徴と歯科的問題点		
	9	患児の歯科的対応		
	10	小児歯科の診療体系		
	11	小児のウ蝕 歯内療法		
	12	小児の歯内療法 外科・外傷		
	13	咬合誘導 フッ化ジアミン銀		
	14	ウ蝕予防について		
	15	障害者の歯科診療		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	授業中の口頭試問など、小テストも毎回実施。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・毎回使用します			

科目名	障害者・高齢者歯科疾患論	2年生	1単位	全 15 講
講師名	岡田 和隆	評価方法	定期試験	
教科目標				
高齢者の歯科保健、医療、福祉を学ぶ				
障害者の口腔の健康を維持・回復するための歯科衛生士の役割を学ぶ				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
スペシャルニーズのある人への基本的な考え方、知識、技術の習得を通して				
歯科領域以外の介護、福祉、保健の分野における歯科衛生士の役割を知る				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
これからの歯科医療における高齢者歯科、障害者歯科の重要性を理解してほしい				
講 義 内 容	1	高齢社会と健康/障害の概念		
	2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患		
	3	高齢者・障害者に関わる法制度/高齢者の住まい・入院設備		
	4	加齢に伴う身体的機能の変化/高齢者の精神・心理的变化		
	5	口腔・咽頭領域の加齢変化		
	6	高齢者に多い全身疾患		
	7	高齢者に特有な口腔疾患		
	8	高齢者の生活機能評価・臨床検査		
	9	高齢者の栄養状態・薬剤服用/在宅訪問歯科診療/歯科衛生過程		
	10	口腔ケア総論		
	11	口腔ケア各論/周術期口腔機能管理		
	12	障害者の歯科医療と行動調整		
	13	摂食嚥下リハビリテーション①		
	14	摂食嚥下リハビリテーション②		
	15	障害者への健康支援と口腔衛生管理/地域における障害者歯科		
理 解 度 の 把 握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
	(例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。			
	授業中に学生を指名して回答を求めることで理解度を把握する。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	授業の予習、復習を行うこと。			
使用機材	プロジェクター、 毎回			

科目名	情報科学・コンピューター	1年生	1単位	全 15 講
講師名	東川 裕希子	評価方法	平常点・課題点・定期試験	
教科目標				
OFFICE製品の基本操作及び機能を習得し、実務で求められるスキルを身につける。				
この教科の位置づけ。				
ビジネス文書及びレポート作成。				
実務で求められる表作成のスキル及びプレゼンテーション技術。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
それぞれのアプリケーションの特性を理解し、現場で即戦力となるスキルを身につける。				
講 義 内 容	1	ガイダンス・入力練習・wordの便利な機能		
	2	第2章 文章の入力・ビジネス文書の基本・入力フォーマット		
	3	復習 第3章グラフィック機能		
	4	第3章 表現力のある文章・練習問題		
	5	第4章 表の作成と編集		
	6	復習・実践課題		
	7	第10章 PowerPointの概要と画面構成 第11章プレゼンテーションの作成		
	8	プレゼンテーションの作成①		
	9	プレゼンテーションの作成②		
	10	第5章 Excelの概要と基本操作 第6章 データ入力・表の作成		
	11	第7章 表の作成		
	12	プレゼンテーション個人発表		
	13	第8章 グラフの作成と編集・練習問題		
	14	復習:総合問題5		
	15	第9章データベース機能		
理解度の把握				
その他	授業態度も成績に加味する。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			

科目名	歯科診療補助論 I	開講学年	1学年
講師名	早乙女 美佳	2単位 30講	
評価方法	定期試験、実技		
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々		担当
講 義 ・ 実 習 内 容	1	1章歯科診療補助の概念	早乙女
	2	2章医療安全と感染予防	〃
	3	3章歯科診療における基礎知識	〃
	4	消毒滅菌講義・医療廃棄物・薬品の管理【手洗いチェッカー】	〃
	5	ユニット使用方法・患者誘導	〃
	6	バキューム(曲)・シリンジ操作口腔内洗浄2人マネキン	〃
	7	口腔内洗浄(2人)チェック	早乙女
	8	バキューム(直)/1mm・5mm綿球	〃
	9	口腔内洗浄相互(2人)	〃
	10	口腔内洗浄1人マネキン(曲・直)	〃
	11	口腔内洗浄1人チェック	〃
	12	口腔内洗浄相互(1人)	〃
	13	石膏取扱い	〃
	14	印象材取扱い	〃
	15	アルジネート印象材練和実習①	〃
	16	アルジネート印象材練和実習②	〃
	17	片顎模型作成	〃
	18	マネキンスタディモデル作成①	〃
	19	マネキンスタディモデル作成②	〃
	20	トリミング・オリエンテーション	〃
	21	片顎模型作成相互実習	〃
	22	スタディモデル作成相互実習①	〃
	23	スタディモデル作成相互実習②	〃
	24	連合印象・模型作製	〃
	25	リン酸亜鉛セメント練和実習	〃
	26	リン酸亜鉛セメント練和実習チェック	〃
	27	ガラスアイオノマーセメント練和実習	〃
	28	ガラスアイオノマーセメントチェック	〃
	29	セメント系仮封・仮着	〃
	30	仮封材	〃

科目名	歯科診療補助論Ⅱ	2年生	3単位	全 45 講	
講師名	古館 佳奈	評価方法	小テスト・定期試験		
教科目標	知識面でも理解を深め、技術面でも向上できるようにする。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？					
診療補助は、全科目に通じる科目。					
この科目を通して他の科目の繋がりが、理解を深めてもらいたい。					
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。					
技術面の難しさを体で覚えていく事になると思うが、練習を重ね自分の物にして いてもらいたい。					
講 義 内 容	25	口腔外科治療のセッティング(注射カートリッジ・ナート用器具・メスの準備)			
	26	歯肉圧排法 実習(マネキン実習)			
	27	歯肉圧排法 実習(相互実習)			
	28	歯科補綴学 鑄造冠			
	29	歯科補綴学 義歯			
	30	補綴 使用器材セッティング			
	31	暫間被覆冠とは 目的・作成方法			
	32	ラバーダム相互実習			
	33				
	34	小児歯科学			
	35	小児歯科治療セッティング			
	36	暫間被覆冠作成にあたっての支台歯印象(寒天での連合印象)			
	37	暫間被覆冠作成にあたっての支台歯印象(寒天での連合印象)			
	38	暫間被覆冠 既製冠使用方法①			
	39	暫間被覆冠 既製冠使用方法②			
	40	暫間被覆冠 印象法①			
	41	暫間被覆冠 混和法①			
	42	スーパーボンド			
	43	レボリューション			
	44	寒天印象材 相互実習①			
	45	寒天印象材 相互実習②			
	理解度の把握	小テスト・口頭試問・実技チェック			
	その他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々				

＜歯科衛生士学科 シラバス＞

科目名	歯科診療補助論Ⅲ	3年生	2単位	全 30 講
講師名	松橋 未香	評価方法	定期試験	

教科目標 3年次の歯科診療補助は臨床における安全管理を念頭に置き、器具・器材・材料の取扱い、用途に合わせた適切なアシスト・実技が理解、実践できる能力を養う

この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？

臨床実習・卒業後に即戦力を養う上での実技・知識の習得

この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。

歯科衛生士業務において、安全管理の能力を身につけ、患者第一を忘れず、効率よく業務が遂行できる

講 義 内 容	1	総論
	2	主要歯科材料の種類、取扱いと管理
	3	小児歯科治療時の診療補助①
	4	小児歯科治療時の診療補助②
	5	補綴治療時の診療補助①
	6	補綴治療時の診療補助②
	7	歯周外科治療時の診療補助①
	8	歯周外科治療時の診療補助②
	9	口腔外科治療時の診療補助①
	10	口腔外科治療時の診療補助②
	11	バキューム・セメント練和・器具受け渡し実習①
	12	バキューム・セメント練和・器具受け渡し実習②
	13	歯内療法治療時の診療補助①
	14	歯内療法治療時の診療補助②
	15	外科的歯内療法治療時の診療補助
	16	保存修復治療時の診療補助①
	17	保存修復治療時の診療補助②
	18	バキューム・セメント練和・器具受け渡し実習③
	19	バキューム・セメント練和・器具受け渡し実習④
	20	矯正歯科治療時の診療補助①
	21	矯正歯科治療時の診療補助②
	22	高齢者歯科治療時の診療補助①
	23	高齢者歯科治療時の診療補助②
	24	障害者歯科治療時の診療補助①
	25	障害者歯科治療時の診療補助②
	26	知識整理・まとめ
	27	知識整理・まとめ
	28	知識整理・まとめ
	29	知識整理・まとめ
	30	知識整理・まとめ

科目名	歯科保健指導論 I	1年生	2単位	全30講
講師名	森 成子	評価方法	定期試験	
教科目標:				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか?				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
講 義 内 容	1	1年間の授業の流れ		
	2	I 編総論 1章 健康の概念、予防の概念		
	3	II 編1章口腔の基礎知識 口腔の機能 摂食・嚥下		
	4	II 編2章う蝕と歯周病の基礎知識		
	5	II 編2章う蝕と歯周病の基礎知識		
	6	III 編 歯科保健指導論 2章分析のためのデータ		
	7	染め出し実習、ブラッシング実習(PCR算出)		
	8	分析のためのデータ続き		
	9	III 編 歯科保健指導論 3章口腔清掃方法		
	10	III 編 歯科保健指導論 3章口腔清掃方法		
	11	実技試験		
	12	III 編 歯科保健指導論 3章口腔清掃方法		
	13	III 編 歯科保健指導論 3章口腔清掃方法		
	14	実技試験		
	15	III 編 歯科保健指導論 3章⑥-2 歯磨剤		
	16	III 編 歯科保健指導論 3章⑥-3 洗口剤		
	17	食生活指導の進め方・シュガーコントロール指導と		
	18	III 編 歯科保健指導論 3章⑧喫煙者に対する指導		
	19	術者磨き、染め出し・再染め出し		
	20	相互実習		
	21	術者磨き(フロス実習)、染め出し・再染め出し		
	22	後期授業オリエンテーション		
	23	IV 編 歯科衛生活動の展開	1章 ライフステージ別歯科衛生介入①妊産婦期	
	24	IV 編 歯科衛生活動の展開	1章 ライフステージ別歯科衛生介入②新生児期・乳児期	
	25	IV 編 歯科衛生活動の展開	1章 ライフステージ別歯科衛生介入②新生児期・乳児期	
	26	IV 編 歯科衛生活動の展開	1章 ライフステージ別歯科衛生介入③幼児期	
	27	IV 編 歯科衛生活動の展開	1章 ライフステージ別歯科衛生介入③幼児期	
	28	IV 編 歯科衛生活動の展開	1章 ライフステージ別歯科衛生介入④学童期	
	29	IV 編 歯科衛生活動の展開	1章 ライフステージ別歯科衛生介入④学童期	
	30	ライフステージに応じた食生活指導		
理解度の把握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法			
その他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材				

科目名	歯科保健指導論Ⅱ	2年生	2単位	全30講
講師名	藤岡 郁子・増田 有希	評価方法	提出物・実習・ペーパーテスト	
教科目標：健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術及び態度を修得する。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
歯科保健指導を行うために、対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生課程を修得する。				
口腔清掃指導を行うために必要な知識、技術及び態度を修得する。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
ライフステージと機能障害に応じた生活指導を行うために積極的に学んでほしい。				
講 義 内 容	1	歯科衛生課程のすすめ方		
	2	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理		
	3	分析のためのデータ①		
	4	分析のためのデータ②		
	5	う蝕活動性試験の応用		
	6	口腔内観察・歯式		
	7	ライフステージ 青年期Ⅰ		
	8	ライフステージ 青年期Ⅱ		
	9	食生活指導(栄養指導)の進め方		
	10	喫煙者に対する指導		
	11	口腔内観察・歯式・術者磨きⅠ		
	12	口腔内観察・歯式・術者磨きⅡ		
	13	ライフステージ 成人期Ⅰ		
	14	ライフステージ 成人期Ⅱ		
	15	問診・データ・アセスメントⅠ		
	16	問診・データ・アセスメントⅡ		
	17	しょうがい①しょうがいを持った子どもとの対応		
	18	ライフステージ 成人期Ⅱ		
	19	しょうがい②レストレイナー体験実習		
	20	南幌養護学校実習オリエン・あいさつ練習・プレゼント準備		
	21	ライフステージ 老年期Ⅰ		
	22	しょうがい③		
	23	ライフステージ 老年期Ⅱ		
	24	ライフステージ 要介護高齢者Ⅰ		
	25	しょうがい④		
	26	しょうがい⑤		
	27	しょうがい⑥		
	28	ライフステージ 要介護高齢者Ⅰ		
	29	交流実習症例検討発表Ⅰ		
	30	交流実習症例検討発表Ⅱ		
理解度の把握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法 レポート課題あり 実習レポート、実習態度			
その他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。 シラバスを確認し、教本黙読と前回の復習。実習時は前準備と流れの確認 忘れ物しない。ノート・ファイルを作成する。			
使用機材				

＜歯科衛生士学科 シラバス＞

科目名	歯科保健指導論Ⅲ	3年生	2単位	全 30 講
講師名	松橋 未香・谷口由美子	評価方法	定期試験	
教科目標	3年次の歯科保健指導は臨床における歯科衛生士のアプローチを学び、対象者の情報収集を分析できる。行動変容に繋げるための支援を理解、実践できる能力を養い、国家試験に必要な知識を習得する			
	この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？			
	臨床実習・卒業後に即戦力を養う上での知識の習得とコミュニケーション力を育成			
	この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。			
	歯科衛生士業務において、患者との関わりの中から業務のやりがいを実感できる			
講 義 内 容	1	高齢者施設実習の説明と役割分担		
	2	高齢者施設実習のための媒体作成①		
	3	高齢者施設実習のための媒体作成②		
	4	高齢者施設実習のための媒体作成③		
	5	高齢者施設実習のための媒体作成④		
	6	高齢者施設実習のための媒体作成⑤		
	7	高齢者施設実習のための媒体作成⑥		
	8	施設における高齢者・要介護者の歯科衛生過程アセスメント		
	9	施設における高齢者・要介護者の歯科衛生過程・計画立案		
	10	施設における高齢者・要介護者の歯科衛生過程・歯科衛生介入		
	11	施設における高齢者・要介護者の歯科衛生過程・歯科衛生評価		
	12	口腔機能向上実習①		
	13	口腔機能向上実習②		
	14	口腔機能向上実習③		
	15	口腔機能向上実習④		
	16	摂食嚥下障害に対する間接訓練		
	17	摂食嚥下障害に対する直接訓練		
	18	栄養管理		
	19	多職種連携①		
	20	多職種連携②		
	21	高齢者施設実習振り返りのためのパワーポイント作成①		
	22	高齢者施設実習振り返りのためのパワーポイント作成②		
	23	高齢者施設実習振り返りのためのパワーポイント作成③		
	24	高齢者施設実習振り返り		
	25	知識整理・まとめ 1		
	26	知識整理・まとめ 2		
	27	知識整理・まとめ 3		
	28	知識整理・まとめ 4		
	29	知識整理・まとめ 5		
	30	知識整理・まとめ 6		

科目名	歯科補綴学	2年生	1単位	全15講
講師名	飯田 俊二	評価方法	定期試験	
教科目標	歯科補綴学を臨床的、総合的に理解する。			
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
講 義 内 容	1	歯科補綴学とは		
	2	歯科補綴学の基礎知識		
	3	歯科補綴学の基礎知識		
	4	歯の欠損に伴う障害		
	5	補綴装置(クラウン)		
	6	補綴装置(クラウン)		
	7	補綴装置(ブリッジ)		
	8	補綴装置(ブリッジ)		
	9	補綴装置(部分床義歯)		
	10	補綴装置(部分床義歯)		
	11	補綴装置(全部床義歯)		
	12	補綴装置(全部床義歯)		
	13	補綴装置(インプラント)		
	14	歯科補綴における歯科衛生士の役割		
	15	まとめ		
理解度の把握	小テスト以外に到達度、理解度の確認を行う方法 (例)○コマ終了後の中間テスト、口頭試問、レポートなど。			
その他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			

科目名	歯科放射線学	2年生	1単位	全 15 講
講師名	戸井田 侑	評価方法	定期試験	
教科目標				
X線や放射線の基礎知識、歯科診療でのX線撮影の影響や防護知識を習得する。				
歯科X線撮影の目的、方法や画像観察、又装置や器材の取扱い方法等を講義と実習で習得する。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
歯科X線撮影による病変画像診断の有用性や意義などを理解する。				
実習でX線撮影に関する実際の診療補助業務の流れを習得する。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
放射線の影響を正しく理解して、X線撮影の補助業務を不安なく的確に行う。				
放射線被曝や防護について患者さんへ正確な説明が出来る様になって欲しい。				
講 義 内 容	1	歯科診療でのX線撮影の目的や画像診断の意義を理解する。		
	2	放射線の物理的特性や生物学的作用の基本を学ぶ。		
	3	放射線の生物作用や被曝影響を正しく理解し、放射線防護の基本を学ぶ。		
	4	X線画像の形成原理、口内法フィルムやデジタルセンサーの特徴を学ぶ。		
	5	口内法撮影装置の構成や器材、様々な撮影法の目的や撮影原理、方法を学ぶ。		
	6	パノラマやX線規格撮影装置、又顎顔面領域の撮影法の基礎知識を学ぶ。		
	7	歯科用CTやMRI装置、核医学検査、超音波検査等の特徴や基本原理を学ぶ。		
	8	口内法X線撮影での頭部固定、フィルム位置づけ、角度設定など実際の撮影手順を学ぶ。		
	9	口内法撮影画像の症例観察や撮影の失敗例と原因等を学ぶ。		
	10	パノラマX線撮影での実際の撮影手順、画像の観察の失敗例とその原因等を学ぶ。		
	11	X線フィルムの現像処理手順や保管方法、普及の進むデジタル画像処理の特徴等を学ぶ。		
	12	口腔領域の放射線治療法や副作用に伴う口腔管理の解説。		
	13	歯科放射線関係の既出国試問題の解説と復習。		
	14	歯科診療で一般的な口内法やパノラマX線撮影の実習を通して、実際の診療補助業務の流れを理解する。		
	15			
理 解 度 の 把 握	教科書の要点や補足資料の配布、X線画像を例示等で理解しやすい工夫をする。			
	実際のX線撮影装置や器材を見て、教科書の理解度を深める。			
	エックス線撮影手順や診療補助業務を実習を通して把握する。			
	歯科放射線の既出国家試験問題と併せて講義の理解度をチェックする。			
そ の 他	この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。			
	材の勉強は国試にも対応した基礎知識だが、実際の技術習得には他の学科技術と同様に経験と時間が必要で、その一端を、学校の撮影実習で体感して欲しい。			
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他()、 ほぼ毎回・時々			

科目名	歯科予防処置論 I	1年生	2単位	全30講	
講師名	山田寛恵	評価方法	定期試験・実技試験 等		
教科目標					
◎予防的歯石除去法を理解するとともに、インスツルメントを安全に把持する上で必要な、基本的動作をマスターする。					
◎各種器械・器具の取り扱いを理解し、模型上で操作ができる。					
◎相互実習へ向け、必要な技術を総合的に発揮し安全に施術することができる。					
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？					
◎歯科衛生士としての業務のひとつである。講義及び実習の中で、知識・技術を身につけ、臨床実習の場において力を発揮することができる。					
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。					
◎歯科衛生士が技術職であることを実感できる科目である。簡単には身に付かず困難な時期もあるがそれを乗り越え、技術を習得できた時の充実感と喜びを自信にかえて成長してほしい。					
講 義 内 容	実技1	★マネキン取り扱い ※顎模型・粘膜の取り付け方			
	1	I編 総論・II編 1章 口腔の基礎知識 ①②	★ペンシルトレーニング		
	2	II編 1章 口腔の基礎知識 ①②	★ペンシルトレーニング		
	3	II編 1章 口腔の基礎知識 ③	★固定指確認 探針・ピンセット取扱 :GW		
	4	III編 3章 ①スケーリング	★手用スケーラー把持訓練(前腕回転運動)		
	5	II編 2章 歯周病の基礎知識 ①②③	★前腕回転運動の確認		
	6	II編 2章 歯周病の基礎知識 ⑤	★手根関節運動		
	7	III編 2章 ②口腔内の情報収集 1	★前腕回転・手根関節運動 反復練習		
	8	マネキン取り扱い・ポジショニング・各種インスツルメント取扱・マネキン実習デモの見方 33～43唇側デモ			
	9	シクルスケーラー部位別操作法	マネキン実習 33～43舌側デモ		
	10	II編 2章 ⑤	マネキン実習 上顎前歯部デモ		
	11	II編 2章 ⑤	マネキン実習 前歯部 確認		
	12	II編 2章 ⑤	マネキン実習 下顎左側臼歯部デモ		
	13	II編 2章 ⑤	マネキン実習 下顎右側臼歯部デモ		
	14	II編 2章 ⑤	マネキン実習 上顎臼歯部デモ :sv		
	15	II編 2章 ⑤	マネキン実習 下顎前歯部 確認		
	16	II編 2章 ⑤	マネキン実習 上顎前歯部 確認		
	17	II編 2章 ⑤	マネキン実習 臼歯部 確認		
18	II編 2章 ⑤	マネキン実習 全顎 確認			

科目名	歯科予防処置論 I	1年生	2単位	全30講	
講師名	山田寛恵		評価方法	定期試験・実技試験 等	
講 義 内 容	19	プロービングについて	基礎実習含む		
	20	シックルスケーラー部位別操作法	マネキンチェック		
	21	歯面研磨	※実習室にて電気エンジン使用マネキン実習		
	22	相互実習オリエンテーション			
	23	歯面研磨・プロービング基礎実習(ユニット)	★基礎実習室		
	24	*マネキン実習			
	25	歯面研磨相互実習	★基礎実習室		
	26				
	27	プロービング相互実習	★基礎実習室		
	28				
	29	プロービング・歯面研磨相互実習	★基礎実習室		
	30	:WV			
理 解 度 の 把 握	◎小テスト				
	◎インストラクターによる巡回チェック				
	◎実技チェック				
そ の 他	※この授業を受けるにあたり、あらかじめ周知してほしいこと。				
	◎忘れ物をしない				
	◎実習の準備・後始末をしっかりと行う				
使用機材	プロジェクター・パソコン・マネキン実習器材・相互実習器材 等必要に応じて				

科目名	歯科予防処置論Ⅱ	2年生	3単位	全45講
講師名	仁井奈美・萱野美帆・西東聖子	評価方法	定期試験・実技試験 等	
教科目標				
◎基本的動作に加えて対象者に合わせた説明や実技が正確にできるようになる。				
◎総仕上げ実習へ向け、必要な総合的な知識・技術を習得する。				
この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？				
◎歯科衛生士の独占業務である歯科予防処置の技術の習得。今後の臨床実習や現場				
において基本的な実技の力を発揮することができる。				
この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。				
◎歯科衛生士しかおこなうことのできない技術習得の科目である。患者様に実際におこなうことなので自分の技術をしっかり身につけて自信を持って臨床現場で自分の力を発揮できるようにしてほしい。				
講 義 内 容	1	キュレットスケーラー講義	佐藤	
	2	シャープニング講義	佐藤	
	3	(相互実習①)	仁井	
	4	総仕上げ実習オリエンテーション・プロービング・PCR・仕上げ磨き		
	5	(相互実習②)	高田	
	6	超音波スケーラー取り扱い方・プロービング・歯面研磨		
	7	超音波スケーラー・エアスケーラー講義	佐藤	
	8	超音波スケーラー相互実習	佐藤	
	9	歯面清掃器・PMTC講義	佐藤	
	10	PMTC相互実習	佐藤	
	11	(相互実習③)プロービング・スケーリング・スケーリング部歯面研磨	高田	
	12			
	13	(相互実習④)口腔内写真・PCR・プロービング・歯面研磨	高田	
	14			
	15	(相互実習⑤)口腔内写真・プロービング・スケーリング・スケーリング部歯面研	高田	
	16			
	17	キュレットスケーラー実習①	佐藤	
	18	(相互実習⑥)口腔内写真・プロービング・スタディモデル印象採得	高田	
	19			
	20	キュレットスケーラー実習②	佐藤	
	21	キュレットスケーラー実習③	佐藤	

科目名	歯科予防処置論Ⅱ	2年生	3単位	全45講
講師名	仁井奈美・高田梨沙・佐藤美帆・西東聖子		評価方法	定期試験・実技試験 等
22	キュレットスケーラー実習④			佐藤
23	(相互実習⑦)口腔内写真・PCR・プロービング・自分の苦手な施術			高田
24				
25	(相互実習⑧)口腔内写真・PCR・プロービング・自分の苦手な施術			高田
26				
27	キュレットスケーラー実習⑤			佐藤
28	歯周治療について①			西東
29	歯周治療について②			西東
実技1	総合実習Ⅰ(総仕上げ実習リハーサル)			高田
実技2	総合実習Ⅱ(総仕上げ実習リハーサル)			高田
30	総仕上げ実習準備			高田
実技3	総仕上げ実習			学科教員
31	歯周治療について③			西東
32	キュレットスケーラー実習⑥			佐藤
33	歯周治療について④			西東
34	キュレットスケーラー実習⑦			佐藤
35	歯周治療について⑤			西東
36	キュレットスケーラー実習⑧			佐藤
37	歯周治療について⑥			西東
38	キュレットスケーラー実習⑨			佐藤
39	キュレットスケーラー実習⑩			佐藤
40	歯周治療について⑦			西東
41	キュレットスケーリングチェック			佐藤
42	救急救命士学科コラボ実習準備			高田
43	救急救命士学科コラボ実習に向けた相互実習			高田
44				
45	歯周治療について⑧			西東
実技4	救急救命士学科コラボ実習			高田

＜歯科衛生士学科 シラバス＞

科目名	歯科診療補助論Ⅲ	3年生	2単位	全 30 講
講師名	松橋 未香	評価方法	定期試験	

教科目標 3年次の歯科診療補助は臨床における安全管理を念頭に置き、器具・器材・材料の取扱い、用途に合わせた適切なアシスト・実技が理解、実践できる能力を養う

この科目の位置付け。これまでの何(科目、実習など)につながり、これからの何につながるか？

臨床実習・卒業後に即戦力を養う上での実技・知識の習得

この科目に期待してほしいこと。教員、講師の思い。

歯科衛生士業務において、安全管理の能力を身につけ、患者第一を忘れず、効率よく業務が遂行できる

講 義 内 容	1	総論
	2	主要歯科材料の種類、取扱いと管理
	3	小児歯科治療時の診療補助①
	4	小児歯科治療時の診療補助②
	5	補綴治療時の診療補助①
	6	補綴治療時の診療補助②
	7	歯周外科治療時の診療補助①
	8	歯周外科治療時の診療補助②
	9	口腔外科治療時の診療補助①
	10	口腔外科治療時の診療補助②
	11	バキューム・セメント練和・器具受け渡し実習①
	12	バキューム・セメント練和・器具受け渡し実習②
	13	歯内療法治療時の診療補助①
	14	歯内療法治療時の診療補助②
	15	外科的歯内療法治療時の診療補助
	16	保存修復治療時の診療補助①
	17	保存修復治療時の診療補助②
	18	バキューム・セメント練和・器具受け渡し実習③
	19	バキューム・セメント練和・器具受け渡し実習④
	20	矯正歯科治療時の診療補助①
	21	矯正歯科治療時の診療補助②
	22	高齢者歯科治療時の診療補助①
	23	高齢者歯科治療時の診療補助②
	24	障害者歯科治療時の診療補助①
	25	障害者歯科治療時の診療補助②
	26	知識整理・まとめ
	27	知識整理・まとめ
	28	知識整理・まとめ
	29	知識整理・まとめ
	30	知識整理・まとめ

＜歯科衛生士学科 シラバス＞

科目名	歯科臨床概論	1年生	1単位	全 8 講
講師名	岩島 佑希	評価方法	定期試験(100点)	
教科目標	歯科臨床について理解を持って教育を受けるために必要な知識を身につけるため、歯科や医科の用語を学ぶとともに、臨床上の歯科衛生士の担う役割を自覚してもらう。			
講義内容	1	歯科医療		
	2	歯科患者		
	3	歯科疾患の概要/歯科診療所		
	4	歯科保存治療の概要/歯周治療の概要		
	5	歯科補綴治療の概要		
	6	小児歯科治療の概要		
	7	矯正歯科治療の概要		
	8	歯科口腔外科の概要		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
理解度の把握	1、各講義の単元終了後、小テストを実施し、授業内容と理解度を確認する。			
その他				